みやぎ青い目の人形を調査する会ニュース

NO、11　2002.12.20　発行

事務局　雫石とも子　022-359-3646
広　報　大場　庸子　022-234-8892

「青い目の人形」を訪ねてビル･ゴードンさん来日

2001 年 **11** 月に来県され、三本木小学校・川渡小学校・桃生小学校・広渕小学校・広渕保育所を訪問して、子どもたちと「青い目の人形」を通して交流したビル･ゴードンさんが、**2002** 年 **10** 月 **23** 日（水）村田第四小学校を訪問しました。

村田四小では、２時間目から **6** 年生と交流しました。ゴードンさんは、**2** 時間目の書写の時間に **6** 年 **1** 組の **11** 名と一緒に「まつり」という字を書きました。ゴードンさんは「筆は二度目です。習字はとても難しいです」と話されていました。

３～４時間目はゴードンさんが「青い目の人形メリーちゃん」と一緒に友情人形の歴史と「アメリカ･多民族多文化社会」について、子どもたちにわかりやすく話し、資料を提示して交流していました。

アメリカの人口や､アメリカ国民の出身地をヨーロッパの祖先の出身国をあてるクイズ形式で授業を行い、子どもたちに答えさせながら、アメリカが様々な人種の人たちが集まってできた国であり、たくさんの文化を持っている国であることをわかりやすく話していました。アメリカは多民族多文化の国であること、民族や文化が違うということで争うのではなく、お互いにその違いを理解することが大切であると話していました。

その交流の様子が **10** 月 **23** 日 **18** 時からのミヤギテレビのニュースで紹介されました。

また、**24** 日の毎日新聞朝刊、**25** 日の河北新報朝刊に掲載されました。

（**10** 月 **24** 日毎日新聞より）
写真左・**6** 年生と一緒に
写真右・ビル･ゴードン氏

米国人研究家ゴードンさん　町立村田第４小訪問

「青い目の人形」交流

友好親善、平和の大切さ語る

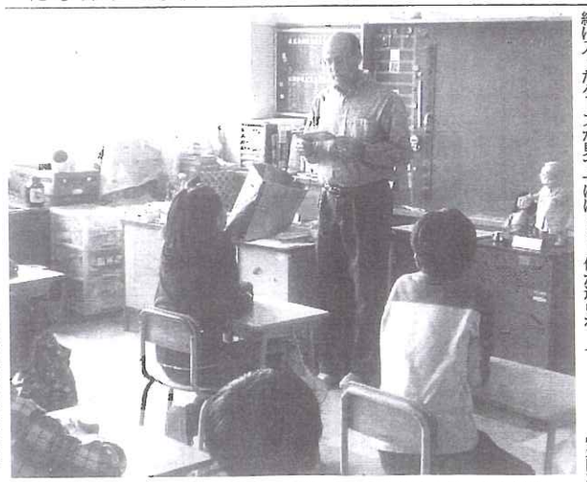
平和の使者として昭和初期、米国から日本に送られた青い目の人形と答礼の日本人形の米国人研究家ビル・ゴードンさん（46）が23日、人形が保存されている村田町立村田第4小（佐久間泰利校長、児童数56人）を訪問、友好親善の大切さや平和の尊さなどを話した。

日本人の妻を持つゴードンさんは3年前から日本の学校を訪れ、人形の消息などを研究。児童たちと交流している。

この日の授業でゴードンさんは、初めに児童と書道に挑戦。青い目の人形のビデオ放映の後、授業した。同校では戦後間もなく物置きから、青い目の人形と日本人形が一緒に入ったケースが見つかり、現在は校長室に保存されている。

青い目の人形は1927（昭和2）年、米から約1万2000体送られたが、現存するのは300体にも満たない。県内には221体が送られ、8体の現存が確認されている。昨年、「みやぎ青い目の人形を調査する会」（斎藤俊子会長、30人）が発足してゴードンさんに協力し、来校につながった。

【豊田英宏】



「青い目の人形」と「日本人形」を机に置き、友好の大切さなど授業

2002 年 4 月に刊行した『仙台市歴史民俗資料館報告書　第２０集　足元からみる民俗（10）―失われた伝承・変容する伝承・新たなる伝承―』を読んで下さった方からお便りを頂きました。2002 年 9 月に頂いたものですが、ご本人の希望により匿名で紹介いたします。

本日、どーんと本が届きました。山口さんから聞いていましたが、こんな本になったかとびっくりしました。大変なものです。文献は私が見たもので一番のものと思いました。（中略）

武田英子さんの本に、「青い目の人形」でなく、友情人形（Friendship Doll）と言おうという提言があります。私はギューリック二世夫妻を訪問しましたが、三世夫妻まで三代にわたり、「青い目の人形」とは言っていません。私は武田英子さんに共鳴しています。どうしても青い目の人形と言いたい方々は８０才以上の方々と思います。日本では、身体的特徴、髪の毛が少ない人々、背の高い人々、太っている人々、お尻の大きい人などを、別の言い方で言ってきました。差別語、不快語をなくしたいのです。身体的特徴の目の色、髪の色は、いよいよ他民族の国アメリカを代表していないのです。日本では犯罪手配書のような事に使われてきたと思います。「青い目の人形」は多くのアメリカ人に対して失礼だという時代と思うのです。同様、答礼人形を「黒い目の人形」という人もいるのです。

里帰りを実現した岡山県、企画している長崎県の新聞記者は併用から切り替えています。青い目の人形の歌も、現在の社会には相応しくないと感じます。雫石さんをはじめ、みやぎ青い目の人形を調査する会の皆さん、ぜひ、友情人形の定着の中心になってください。

「ミス･京都」が京都に里帰りして修復されたことがあります。私は修復には反対です。
いま、博物館や美術館は修復ではなくレプリカの時代です。奇跡の生還、アポロ 18 号の焼けたタイルを新品にして展示は絶対にありえません。横浜人形の家の友情人形（Friendship Doll）は修復せず、レプリカの展示です。保存人形でもオリジナル衣装を廃棄して新衣装を着せているのが多いのですが、中にはオリジナル衣装を保存しているのもあります。どっちがよいかは明白です。

将来、「ミス・宮城」が里帰りしたら修復せず、里帰り記念に別の人形を添えて返すのがよいと私は考えます。

私にできることは言ってください。**2003** 年、長崎に **2** 体、熊本に **2** 体、新人形の受領希望があり **3** 世夫妻に依頼しました。衣装作成など夫人も数学の先生で繁忙なのです。**2001** 年 **3** 月にと希望し５月に到着したのです。

改めて皆様のご努力に敬意を表し、拍手を送ります。ありがとうございました。

Ｏさん（神奈川県在住）

＜としみさんとの思い出＞

としみさんとの出会いは生協のネットワークリーダー会でした。その日から顔をあわせる度に、としみさんはいつも穏やかな笑顔でさりげなく気遣いをしてくれる人でした。

「私はいつでもどこでも平和のことを語り合いたいの、だって大切なことでしょう･･･」ニコニコしながら、やわらかい口調で･･･それがとしみさんの口癖でした。

念願がかなってネットワークリーダー会で「青い目の人形に会いに行きましょう」の交流会が実現した時も、全県にいるネットワークリーダーさんたちがそれぞれの地域で、平和の使者の存在を伝えられるようにと一生懸命でした。

私が八戸市博物館まで飛んでいったことを告げた時の、としみさんの目を丸くしてびっくりした顔が今でも目に浮かびます。

としみさんと出会い、としみさんのやさしい人柄にふれて、私はどんどん癒されて、はじめて生協の活動が楽しくなりました。

おいしい和菓子を何度か作ってくれたこともありましたね。もうお会いできないなんて信じられません。私たちを「青い目の人形を調査する会」に誘ってくれてありがとうございました。毎日の暮らしの中で大切な平和への思いを私たちは持ち続けていきます。

（大泉・島村）

訃　報

みやぎ「青い目の人形」を調査する会準備会からの会員であり、みやぎ生協平和活動委員会当時からの大切な仲間である**佐藤としみ**さんが 2002 年 10 月 25 日にお亡くなりになりました。（61 歳）

7 月 20 日の総会にも手作りの和菓子を作ってきてくださり、8 月 12 日には八木山小学校のケリーちゃんの確認にご一緒しました。このとき、偶然、息子さんの担任だった松坂先生と再会したことを「青い目の人形が会わせてくれた出会いだよ」と、話されていました。

心からご冥福をお祈りいたします。

☆写真 8 月 12 日撮影　ケリーちゃんを抱いた山口さん(左)としみさん(中央)松坂先生(右)